

第 38 回

日本病院歯科口腔外科協議会総会・学術集会 プログラム・抄録集

会期：令和 5 年 11 月 10 日（金）16：40～19：10
会場：大阪国際会議場 10F 1003（第 2 会場）
（第 68 回 日本口腔外科学会総会・学術大会会場内）
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3-5 1
TEL：06-4803-5555

大会長 有家 巧
国立病院機構大阪医療センター 口腔外科

大会長挨拶

第 38 回日本病院歯科口腔外科協議会総会・学術集会 大会長

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター口腔外科

有家 巧

2019 年 12 月初旬、中国の武漢市が発生起源と思われる COVID-19 の出現によって医療人はもとより、一般人においても感染症およびその対応を強く意識せざるをえない日常になりました。先生方の病院や診療所でも感染対策や診療環境整備、スタッフの健康管理そして患者減に伴う診療報酬の減少等々ご苦労されたのではないのでしょうか。コロナウイルスの変異が繰り返されるにつれて COVID-19 の感染動態が変化し、また社会的要因等が勘案され COVID-19 は令和 5 年 5 月 8 日から感染症法上の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」から「5 類感染症」の新型コロナウイルス感染症になりました。しかしながらこの新型コロナウイルス感染症は一向に収束の気配を感じさせず未だ on corona の状態といえます。「5 類感染症」に変更されたために、法的な行動制限措置の撤廃、所謂 2 類相当から解き放された解放感による国民の意識の変化、医療費自己負担によるワクチン接種率の低下、医療機関に対する補助金のカットなど懸念材料はいくつもあります。WHO は今後どのような変異株が出現するのかによって基本シナリオ、楽観的シナリオそして最悪のシナリオの 3 つのシナリオを想定していますが、最悪のシナリオを齎すより重症度が高く、感染力の強い変異株が出現しない事を願うばかりです。とは言えこの先最悪のシナリオが起こった場合にも備えておく必要があり、「5 類感染症」という位置付けに安堵できる状態ではありません。そこでこの度の学術集会テーマを「新興感染症の蔓延下における歯科口腔外科診療」として感染症を専門にされている先生、社会保険に精通された先生そして口腔外科の現場を熟知されている先生をシンポジストとしてお招きいたしました。各先生方の講演が、明日からの口腔外科診療にとって一助となることを期待しております。

プログラム

I 総会 【16：40～16：55】

理事長挨拶

報告事項

その他

II 学術集会 【16：55～19：10】

テーマ「新興感染症の蔓延下における歯科口腔外科診療」

シンポジウム

1) 「新たな脅威に備えて新興感染症を振り返る」

国立病院機構大阪医療センターHIV/AIDS 先端医療開発センター特別顧問
エイズ予防財団 理事長 白阪琢磨 先生

2) 「コロナ禍における診療報酬改定（歯科）の主な成果と課題」

日本歯科医師会 副会長 林 正純 先生

3) 「COVID-19 パンデミックの振り返りとこれからの備え」

大阪歯科大学口腔外科学第2講座 教授 竹信俊彦 先生

4) 「COVID-19 で明らかとなった課題：情報発信、臨床研究、人材育成について」

大阪大学感染制御学 教授 忽那賢志 先生